

◆ご近所の総合力

庭先で採れたフキを使いました



石けん1年分くらいできました



ドラム缶に蛇口をつける穴あけ



★

阿蘇郡西原村には、集落単位の地域づくり活動を支援する補助金制度がある。補助の対象は、花火大会などの親睦行事、自分たちでする道路補修工事、伝統行事に用いる備品代など。わりと自由に何でもできる。私の住む美晴台（みはるだい/ビバリーヒルス）地区は、戸数13の新興住宅地。昨年度、活動の企画書を作り村役場に申請し、数万円の補助金を受けた。

やったのは「極小地域ブランド」確立の取り組み。庭先の野菜やハーブ、ブルーベリーなどを使って、加工品を作り販売する。ロゴマークも作り、ホームページも立ちあげた。必要な備品も購入した。準備は整ったので、今年度から、補助は受けず自前で事業を進めていく予定。

★★

左の写真は、試作品第一号の「大人のキャラフキ」。既に定年退職し悠々自適に暮らす集落最年長の旦那さんの作。庭に自生するフキを水炊きしたあと半日天日干ししトウガラシを効かせて炊き上げた、いい仕事の一品。旦那さんは、フキ味噌やゆず胡椒も作る。奥さんかというと、ハーブづくりが上手で、ジェノバペーストとフェネル酢、それにピクルスも絶品。カモミールのお茶も美味しい。こうした商品を販売するのは先のことだが、まずは、パックにロゴマークのシールを貼り、都会に暮らす家族や知人に送る。

我が家のお隣は、ガーデニングが見事。今は青いルピナスが主役。昨年の夏は、ブルービー（青色ミツバチ）が庭のアフリカンバジルにやってきた。そのこぼれ種から生えた苗を分けてもらい、今年は、我が家の庭にも植える予定。

連休中に、地区のみんなで石けんも作った。各戸に配り、脱界面活性剤のエコ・コミュニティを目指す。ドラム缶を使った雨水タンクも作った。これは、ハス向かいの大工さんの指導による。雨どいの下に設置し、節水生活を始める。

★★★

ご近所の総合力を発揮すると、結構いろんなことができる。美晴台には、ハーブ名人や大工、デザイナー、果樹農家、電気設備技術者などが暮らしている。異業種混合なのがよい。半世紀前、J・ジェイコブスは、都市の一街区には3つ以上の機能が混在することが望ましいと指摘した。田舎暮らしも同じだ。異年齢の住民がいて、田舎出身・都会生まれもほどほどに混住する田舎の新興小住区。その作り方、育て方を実験し、1つのモデルを示したい。